

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0653 ◆◆◆

21/09/15

【 次期首相決定とともに高まる「日銀総裁」交代論 】

菅首相(自民党総裁)の後任となる自民党総裁選をめぐり、様々な思惑が交錯している。前回もレポートしたように、世間一般的な評価の高い人物は「河野行革相」のようだ。そうしたなか、金融市場の一部で懸念されているものが「次期日銀総裁」人事になる。周知のように、現在の黒田日銀総裁は菅氏の前任者である安倍氏とともに二人三脚で、いわゆる「アベノミクス」を牽引してきた人物。それだけに、河野氏や岸田氏など安倍氏の影響力が薄い候補者が勝利を収めた場合、日銀総裁交代論が一気に高まる可能性も否定できない。

◎黒田氏、高齢はネックだが「アベノミクス」牽引も再任の足かせに

日銀総裁の任期は5年間。現在の黒田日銀総裁は2023年4月8日に期限切れを迎える。そんな黒田氏は現在まで歴代2位の在任期間を誇っているだけでなく、このままいけば歴代最長を更新することがほぼ確実だ。何故なら、9月29日には在任期間がもっとも長い第18代総裁の一万田尚登氏(1946年6月-54年12月)を抜くため、期限満期の遙か前に記録を更新することになる。

ただ、そんな黒田氏もすでに76歳。前回、2018年に再選された際の「73歳」も歴代最高齢であり、満期まで勤め上げれば78歳ということになる。したがって年齢に着目した場合、その時点ですでに「もう1期可能なのか」という話が果たして出てくるのだろうか、ということは以前から指摘されていたもの。しかし、それ以上に再選への障害となりそうなのが、前述した「自民党総裁選」を受けた次期首相人事になりそうだ。

黒田総裁といえば、金融市場の人間のみならず一般的にも忘れられないこととして、「バズーカ」と呼ばれた金融の異次元緩和策がある。とくに第一弾に当たる2013年4月の「量的・質的金融緩和」は、そののち為替市場で急激なドル高・円安をもたらしたほか、株高にも多大な影響を与えていたことは間違いない。そして、そんな「黒田バズーカ」は、安倍首相が提唱する「アベノミクス」の根幹的な役割を担っていたことも疑いないところだ。

いずれにしても、安倍氏の後任となった現在の菅首相も、基本的には安倍氏による「アベノミクス」を引き継いできた、よって、黒田総裁の考えや取っている金融政策と大きな齟齬はない気がするが、次期首相とは果たしてどうなのだろう。

現段階で有力とされる自民党総裁選の候補者を見た場合、安倍前首相は「高市氏支持」を公言しており、テレビなどを通して聞かれる政策もおおむね「アベノミクス」の継承だ。そのため、高市氏が仮に次期自民党総裁、さらに首相になった場合には、「高齢」という年齢的な問題はあるものの、黒田総裁の再選という可能性もゼロではなさそうだ。ただ安倍氏の政策とは一線を画す、次期首相候補の最右翼・河野氏や岸田氏が次期首相に就任すれば、年齢的な要因ではなく、政策的な面からも黒田総裁再選の芽は完全に消滅する公算が大きい。

ではいったい、黒田氏が2023年4月に勇退した場合、誰がその後任となるのだろうか。

ご存じの方もいると思うが、日銀総裁ポストはかつて、日銀出身(生え抜き)と財務省出身者が交互に就任する「たすき掛け」人事を原則として行ってきた。その慣習が一旦途切れた感もあるのだが、仮に復活するとすれば黒田氏が財務省出身者であることから、次は日銀の生え抜き就任が有力だ。さらに細かく候補者を絞ると、最有力は現在の両宮日銀副総裁との見方が多く、確かにそうした視点に立てば、両宮氏は講演などで「もっと上下に動いていい」と金利変動を何度も推奨してきた。黒田氏の後任、次の日銀総裁には金融政策を正常化し、金利を復活させるという難題が待ち受けているものの、先の発言などを鑑みると両宮氏は打ってつけの人物であるのかもしれない。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

